

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

うれしきは せんどぶりなる 皆さんの

笑顔 笑顔に 会えるこの時

ふくろうの郷で たのしいひなまつり

みんなの笑顔が 春を呼んでる

島田 英樹

荒浜 悦子

2月26日(金)に、中川原民生児童委員会主催で中川原地域の皆様をお招きして独居老人食事が淡路ふくろうの郷で開かれました。入居者の皆さんの中からも自治会のメンバーが出席し、参加者の皆様の前で自分の生い立ちや戦中の事をお話されました。また、参加者の皆様も話を熱心に聞いていました。記事の見出しは、中川原民生児童委員の島田様と荒浜様が詠まれた短歌です。参加者の皆様はお互いに「せんどぶりやな」「元気でしたか」と会話に花を咲かせておられ、終始なごやかな雰囲気となりました。

お食事は中川原の野菜を使い、



“フランス料理を楽しむ会”準備着々と進んでいます

平成28年度事業計画で、現在JR兵庫駅高架下にある就労継続B型事業所「神戸ろうあハウス」の事業主体がNPO法人神戸ろうあ協会から当法人に移行する予定です。ろうあハウスの会に移行についての経緯などについて説明を3月1日に行いました。「今までよくわからなかったけど、法人の話聞いて、何か大きな希望が見えた気がします」とのお言葉をいただきました。

4月22日(金)に予定の

「フランス料理を楽しむ会」

の準備が着々と進んでいます。

3月3日にはホテルアナ

ガの中野総料理長にお越しい

ただき、料理の試作・試食会

を行い、調理職員全員で当日

に向けて調理方法など入念な

打ち合わせを行いました。

参加者の皆様と共により楽

しんでいただける会にできる

よう、職員一同知恵と工夫を

出し合っています。

当日は淡路ふくろうの郷の

入居者とご家族、おのころの

家・デイサービスセンター桜

ヶ丘の利用者の皆さんや中川

原地域の皆様にもお越しいた

だく予定です。ボランティア

さんも募っていますのでどう

ぞご協力ください。

(調理係)

メニューも
決まりました!

ボランティア募集

当日お手伝いいただける方を募集しています。内容はウェイターや入居者の皆さんへのお化粧などです。詳しくは淡路ふくろうの郷(0799-25-8550)まで。

前菜

Terrine de Porc d'AWAJI avec Marine de Legume Sauce Orange Confit
淡路ポークの柔らかいテリーヌ仕立て オレンジソース
野菜のピクルスを添えて

スープ

Potage Parmentier avec Cracy
じゃがいものスープに人参のスープを浮かべて

メイン料理

Poêle de Sawara avec étuve de Légume sauce Oignon a la Crème
鱈のポアレ 春野菜の軽い煮込み添え 玉葱のクリームソース

デザート

Shifon Cakes avec Fraise et Crème Chantilly
シフォンケーキ、イチゴ&生クリームを添えて

Café

コーヒー



ふくろう物語 ②

〜櫻木貞信さんの

外出したい気持ちを支える〜



▲先の見えない長い道でもお元気に歩かれます

櫻木さんは、平成26年3日にショートステイの山ユニットに入所され、去年の11月に長期の海ユニットへ移られました。山ユニットの頃は、外に出られ「神戸に帰る」と、ずっと歩いて行かれることが多かったのですが、2階星海ユニットに移動されてからは、しばらくの間は外に出ようとはされませんでした。

しかし、1月頃から、外出したい気持ち膨らみ、他部署にも協力してもらい、本人の気持ちに沿いながら外出の同行をしています。木様としては目が見えるうちに、いろいろなどころに外出したい、神戸に里帰りしたい気持ちがあると思います。認知症の方の「家

旧中川原中学校まで歩いて行ったり、公用車でふくろう周辺をドライブしたりしています。櫻木様はバス停を目指して歩こうと長距離でも元気に歩かれます。とある日、太田相談員と一緒に洲本高速バスセンターまで車で行き、高野島から、バスで出る際には、高額の料金が掛かると知り、帰所されたこともあります。他の入居者様が買い物に行かれる際に、櫻木様にも一緒に行って頂く機会も作っています。

目が見えにくくなっており、櫻木様としては目が見えるうちに、いろいろなどころに外出したい、神戸に里帰りしたい気持ちがあると思います。認知症の方の「家に帰る」。その言葉には、人生をかけての未解決の課題が込められていると学んできました。櫻木さんにとつての「家」とはどんなのでしょうか。そしてそこに人生のどんなことが残されているのでしょうか。私たちは日々の介護を通して櫻木さんの課題を理解し、それに寄り添えるようになりたいものです。
(星海ユニット 足立達哉)



▲山岡さん(左) 3/25のおかしづくりやふくろうまつりにも参加したいです

一週間という短い期間でしたが、皆さまありがとうございます。初日は不安いっぱいでしたが、緊張していましたが、職員さんをはじめ、入居者様にも温かくむかえていただいたりとても安心しました。ここの施設の皆様がとても穏やかな表情で生活されているなあと感じました。入居者様がお好み焼きをつくってくれたときは、本当にうれしかったです。職員さんのご配慮にも感謝です。
全国的にも数の少ない施設での多くのすばらしい経験をさせていただきありがとうございます。またボランティアという形で遊びに来させてください。本当にお世話になりました。

実習を終えて

〜多くのすばらしい経験〜

山岡 麻衣さん

第二回聴覚障害者

医療研究集会

〜東京での発表についての感想〜

二月七日に聴覚障害者医療研究集会に参加し、発表をしてきました。参加人数は43名で、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士など様々な医療関係者が参加されました。



今回は、「ろう者と聴者のMNSE 得点の比較」というテーマで発表しました。MNSE は認知症のスクリーニングによく用いられる検査で、時間や場所の認識や、記憶、書字など様々な課題が盛り込まれています。この検査の得点を見ると、同じ程度の年齢、介護度であっても、ろう者と聴者では、ろう者の方がかなり低い点数になる傾向があることが分かりました。その大きな原因の1つとして、ろう者のコミュニケーションの難しさがあると考えられました。

現在の介護保険制度では、ろう者のコミュニケーションの難しさはなかなか介護度に反映されません。今後ろう者が必要な支援を受けられるようになるために、これから様々な調査を続けていきたいと思っています。

(言語聴覚士

齋藤 奈奈)

ひとりひとり大切に ともに生きる

淡路いくろうの郷では職員を募集しています。長く働き続けられる職場づくりを力を入れていきます。私たちと一緒に働きませんか？

お問い合わせ(総務部)
Tel0799-25-8550
Fax0799-25-8551

感染予防のご協力おねがい
まだまだインフルエンザやノロウイルスなどの感染症の流行がきかれます。体調不良の方の訪問などは、ご遠慮くださいますようお願いいたします。ご理解、ご協力をお願いします。

職員研修 高齢者の死について

2月23日の職員全体会議にて「高齢者の死について」職員研修を行いました。当施設には若い職員も多く、高齢者の一般的な社会的変化、生活環境の変化、身体的な変化について。

そして、よく使われている用語のひとつひとつ、言葉の定義を確認しました。当施設には学習すること、働く事、結婚、出産、子育てをすることも許されなかった入居者が生活しています。体がおかしいと感じてもうまく伝えることが出来ない入居者さんの気持ちを日常の関わりの中からサインを読み取り、代弁していくこと、常に私たちができる介護を考えながら援助に取り組んでいくことが施設職員の使命であると再確認しました。

(健康看護係 渋谷 裕子)



「あなたはどのように死にたいですか？死に方を考えることは、生き方を考えること」

～手話で語ろう私たちの夢～

第19回あわじ耳の日の集いに議員・市民約150人が集う

淡路聴覚障害者
センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階



▲門市長の話をも真剣に聞く参加者

門市長の講演に先立ち、淡聴協会の柏木氏と上内氏が紙芝居で自分の体験を語りました。高齢者参加者からは手話が分からないので、話が理解できないとの感想があり、それに對し、柏木氏は、高齢者若しくは若いうちに行けず、苦労は私たちが若い人が味わった比ではない。でも過去は変えられないが、未来は変えられる。言語条例では手話だけでなく、高齢者への支援を考える

3月6日(日)第19回あわじ耳の日の集いが淡路市しづのおだまき館で開催されました。開催地の淡路市では手話言語条例が成立したこともあり、淡路市が共催となり、市からも行政や市議会議員、他市からも議員等多数の参加がありました。門市長の講演や、当事者からも条例に期待する声寄せられました。

ことも必要と。また会場の参加者からは「子どもの時から家庭、地域で孤立してきた。子育て中でもあり、身近に相談でき、通訳依頼できる場所がほしい」「ろう学校時代、クラスは自分一人。近所の子供からバカ扱いされ、家でゲームばかりしていた。寂しく悔しい思いをした。両親も苦しい思いをしたと思う。会社でも呼ばれても返事ができず、誤解され暴力を受け仕事を辞めざるを得なかった。」「夫はろう者。2人の子供がいるが、保育園や学校の先生、保護者と手話で話ができず、情報が得られない。手話が広がってほしい」など深刻な意見や感想が次々と出されました。門市長は、講演の中で「手話言語条例はみなさんの要望を受け、条例という形で早く作りたかった。これから中味についてはみなさんの意見を聞き、いいものを作っていくべき」と話され、引き続き理解を得られるよう意見を届けていくことの必要性を参加者が感じた集いとなりました。

淡路市手話言語条例報告会

去る2月8日、条例検討委員会委員への報告会が開催され、条例制定の経過や今後の推進協議会設置等について説明がありました。検討委員からは、中味のいいものにするため、今後の推進協議会に期待したい、条例制定に関わったろう当事者を推進協議会として選定してほしい、等の意見が出されました。

繰り返し学習し、防災意識を高めよう

避難訓練と3市行政との話し合い

2月21日(日)淡路聴覚障害者協会主催の防災学習会が当センターの社会生活教室を兼ね開催され、40人が参加しました。午前は協会事務所集まりがあった時に、地震が起こったという設定で事務所から消防署横の防災公園、そこから洲本健康福祉館へ移動というルートで避難訓練を行いました。淡路広域消防本部予防課主幹 樋口氏に指導、助言をいただきました。



▲淡聴協事務所前で避難訓練の説明を聞く参加者

日頃から災害時の事を想定し、準備しておく

樋口氏からは、日頃から防災用のバッグの中身や自分が持てる重さの確認をしておくこと、またろう者は外見ではわからないため、当日ろう者が身に付けていた「聞こえません」「手話」の文字の入ったバンダナやベスト、「手帳」を持つていくことの必要性などについても述べられ、先ずは支援を必要とするろう者がどういうことに困っているか、気づき意見を行政や周囲の人たちに伝えていくことの大事さをお話いただきました。

自分たちができるところで行政に求めたい

午後は3市の福祉課・防災担当の方から各市の要援護者の登録状況や、災害時の情報伝達の現状について説明をいただいた後、参加者と意見交換を行いました。参加者からは「文字の読めない人もいるので見て分かるよう工夫を」「地域の避難訓練が開催される時に、聴覚障害者対応もやってほしい」「民生委員の人達にも聴覚障害者への理解やコミュニケーション方法についての研修の実施」などの要望や意見が出され、行政としても貴重な生の声を今後の施策に反映していきたい、との意見をいただきました。

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2



管理機を使用している山野さん

おのころの家室内作業班の仲間の皆さんに農作業班の頃の仕事内容について報告会が行われました。どんな仕事をしているのか、作業の内容を写した写真がテレビ画面に写し出されます。玉ねぎ苗を植える場面では「わしや、わしや」と西本さんの手が上がる。耕運機を使う濱口直さん。肥料をまく藤木さん。「えー山野さん(89歳)が管理機で耕運してる「へえー」と声上がる。写真画面で農作業の様子が伝わります。

暮らしを創る利用者会議を目指して

2月17日(水)利用者会議行われました。この会議は昨年5月から毎月1回作業を休み利用者同士で作業・生活・行事などについて話し合っています。目的は①利用者同士の話し合いの場を持ち、皆さんで暮らしを考え実現していく事です。具体的には一年の生活行事や旅行などを計画・相談し、要望や意見を出し合っています。

昨年この会議を始めた時は、何が始まるのかときよんとした皆さんでした。



テレビ画面で農作業班の取組を報告している様子

項目	平成26年度	平成27年度	4月~2月
	決算額	予算額	収入状況
自主製品収入(縫製品)	512,633	600,000	445,750
農作業収入(野菜 お米)	430,505	1,200,000	1,499,111
委託収入(清掃作業等)	1,061,205	956,000	597,250
内職収入(箱折作業)	249,411	300,000	179,686
その他収入(海鮮物等)	318,910	900,000	401,493
菓子パン収入	5,762,921	7,200,000	5,966,531
作業収入合計	8,335,585	11,156,000	9,089,821
物品売上原価	207,417	300,000	157,981
農作業原価(種苗 肥料等)	283,909	700,000	712,978
その他収入(海鮮仕入等)	244,555	445,000	190,760
菓子パン売上原価	3,461,456	4,355,000	3,799,543
利用者工賃(おのころの家)	2,103,310	2,520,000	2,588,670
利用者工賃(おのころ屋)	1,685,025	1,680,000	1,705,210
作業支出合計	7,985,672	10,000,000	9,155,142
収支差額	349,913	1,156,000	-65,321

しかし最近では会議の雰囲気も違和感がなくなり輪になって座ることができ要望・意見が出せる場になりつつあります。

今日の主な議題は次年度生活行事の企画です。支援員から「仕事以外でどんなことをしたいですか」と聞くと「花見に行きたい」「姫路城を見に行きたい」「京都へ行きたい」「バーベキューしたい」「温泉に行きたい」と次々意見が出されます。

おたがいさま事業「助かるわ」

「今日は地域の方から作業依頼があり、この笹林や雑木を切って裏山をきれいにします」とおのころの家利用者2名と支援員2名で作業が始まります。この事業は中川原ふれあいセンターの「おたがいさま事業」で、中川原町二ツ石地域の住民の方がお互いに助け合って行こうと、できないことを依頼し登録作業員が訪問し作業を行うものです。おのころの家も登録作業員で、これまで月2-3回依頼に応え喜ばれてきました。独居・高齢化のこの地域では有効な事業です。(藤崎・中島)



作業前の様子



作業後の様子



平成27年度バザー売上げ表

(単位:円)

商品名	場所	4月~3月
自主製品(縫製用)	・イオン洲本店	25,000
・ポーチ	・淡路医療センター内売店	155,880
・布袋	・農直売所ふるさと(2か所)	30,029
・エコバック	・おのころの家見学者向け	112,730
・猫のカゴ	・ふくろうの郷見学者向け	21,510
・タオルドレス	・御食国	7,510
・腕カバー	・イベントの行事による販売	0
・スタイ	・レトロな街歩き(4/25.26・10/17.18)	9,300
(洲本市委託)	・聴障ネット総会(5/10)・学習会(8/16)・集会(12/6)	7,000
	・兵庫県ろうあ大会(6/28)・兵庫県新年大会(1/17)	4,200
	・兵庫県聴覚障害者文化祭(9/26)	7,000
	・洲本市社協(10/11)	0
	・ふくろうふれ愛まつり(10/26)	900
	・耳の日の集い(3/6)・耳の日記念大会(3/13)	60,900
	合計	441,959

昨年(支援員 藤崎・藤本)は徳島観光日帰り旅行に全員が行ったり海辺でバーベキューを行ったり皆さんの希望を実現してきました。

まだこの自分たちの希望を実現する会議には慣れていない人もいます。多くの人の意見が出せお互いを理解し共に暮らしを豊かにして行けるように支援工夫していきたいと思えます。

続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

NO.20

北 岡 肇

① 力石・もちあげ
競う

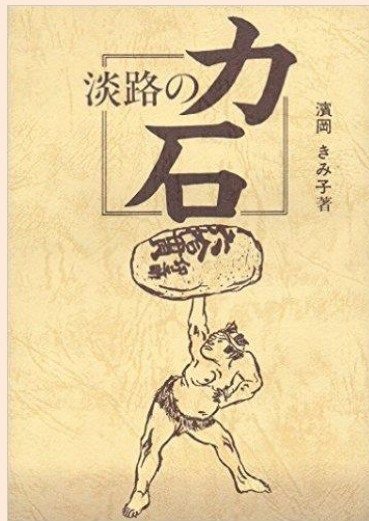
村まつり(その2)

力石を持ち上げるとき、力士を励まして、お祭りを盛り上げようと、三味線、太鼓、鐘のお囃子に合わせ、声もよく、ハリもよく、節回しもよく、上手な口上師がいたそう。郷土史について研究されていた、故濱岡きみ子さんの著書「淡路の力石」の中で、尾崎に植松喜助さん(明治一五年生まれ)が居て得がたい話を聴くことが出来た。

「一宮さん『いざなぎ神宮』の力石の口上」をテープに収めることが出来た。その口上は…。
さあさあ ござれよ ござれ皆の衆
国生みなされた神様を 祀り申した
淡路の国の一宮 上郡 下郡から
カじまんの強力が はーせ参じ申した
力持ち 秘力披露じゃ 皆様方よ
目ん玉引きむき よーく見ろ

力比べの力持ち またと見れんぞ力持ち
石でもごんせ 俵でもござれ
ござれ、ござれに指しきって
一石もなんのその まつりの花じゃ
花じゃ 花じゃ 淡路の花じゃ
国の始めの淡路島 淡路の花は日本一
日本一の力持ち 見ないで帰るは
先祖にすまぬぞ 親不孝
切り傷すり傷にや さあさあここだよ
ガマの油をちよいとつけりや
一突 どのこい なおりはするが
力持ちだきやガマの油じゃ
なおりやせん なおらぬはずだよ
傷がない 持ちは持ちでも
餅ではないぞ 一石石を差し上げる
力持ち どのこい ほればれするぞ
女人衆でも見落しや損だ
日本一の力持ち さあさあござれ
始まるぞ 淡路の島も 差し上げる
淡路の島は どのこい
根が生えたんか 差しきれない
こんどの祭りや 根をぶち切つて
見事差し上げます力持ち
へえー 淡路島を差しさるー
疑いなさんを 神前じゃ
ころころ素直に 正直に
正直は一生の宝と わしらの先祖が
教えてくれたじやないか

先祖の教えにや 間違いない
今日一番誰じゃろう
日本一の顔を見よう 誰じゃ誰じゃ
それはここからの
お楽しみ さあさあござれ始まるぞ
おーい そのねえちゃんも ちよいと
こちらへおいんをはれ



三月三日(木)徳島県吉野川市社会福祉協議会鴨島地区から民生委員の皆さまが見学交流にいらつしやいました。

入居者の人生語りが良かったとお気持ちをお礼の募金に託していただきました。



ふくろう募金箱

ありがとうございます。

3月5日現在 1,048,670 円になりました。



書籍をありがとうございます

3月5日中野隆志様・千賀子様から「現代世界美術全集」など30冊あまりの絵画書籍を頂きました。ゴッホやルノワールなど感動ものの絵画がたっぷり。本当にありがとうございます。

